

Week of April 13, 2025 - Knowledge Puffs Up, But Love Builds Up! Small Group Lesson 20

知り合う

何か新しいことを学んで、普段のやり方が変わった経験について考えてみてください。それは何でしたか？どのようにあなたに影響を与えましたか？他の人にも影響がありましたか？

聖句　コリントの信徒への手紙一 8（聖書協会共同訳）

声に出して読んでください：

1:偶像に献げた肉について言えば、私たちは皆、知識を持っている、ということは確かです。しかし、知識は人を高ぶらせるのに対して、愛は人を造り上げます。2:ある人が、何かを知っていると思っているなら、その人は、知らねばならないように知ってはいないのです。3:しかし、神を愛する人がいるなら、その人は神に知られています。4:そこで、偶像に献げた肉を食べることについてですが、この世に偶像の神などはなく、唯一の神以外にいかなる神もいないことを、私たちは知っています。5:現に多くの神々や多くの主なるものがあるように、神々と呼ばれるものが天や地にあるとしても、6:私たちには、唯一の父なる神がおられ／万物はこの神から出／私たちもこの神へと向かっています。／また、唯一の主、イエス・キリストがおられ／万物はこの主によって存在し／私たちもこの主によって存在しています。

7:しかし、この知識が誰にでもあるわけではありません。ある人たちは、今まで偶像になじんできたせいで、偶像に献げた肉として食べ、良心が弱いために汚されるのです。8:食物が、私たちを神のもとに導くのではありません。食べなくても不利にはならず、食べても有利にはなりません。9:ただ、あなたがたのこの強さが、弱い人々のつまずきとならないように、気をつけなさい。10:知識のあるあなたが偶像の神殿で食事をしているのを、誰かが見たら、その人は弱いのに、その良心が強められて、偶像に献げた肉を食べるようなことにならないでしょうか。11:そうなると、その弱い人は、あなたの知識によって滅びることになります。しかし、このきょうだいのためにも、キリストは死んでくださったのです。12:このように、きょうだいに対して罪を犯し、その弱い良心を傷つけるのは、キリストに対して罪を犯すことなのです。13:それだから、食物が私のきょうだいをつまずかせるなら、きょうだいをつまずかせないために、私は今後決して肉を口にしません。

簡潔に内容をもう一度確認してください。どのような励ましや挑戦、慰めなどを与えられますか？

学び

今日の聖書箇所に基づいて、次の質問を一緒に考えましょう。

1:1節に「知識は人を高ぶらせるのに対して、愛は人を造り上げます。」と書かれています。パウロは「高ぶらせる」という言葉をどういう意味で使っていると思いますか？愛とはどう違うのでしょうか？

2:4～6節によると、偶像や他の神々の存在についてパウロは何と言っていますか？信徒にとって最も大切な真理は何ですか？

3: 7～9節では、パウロは「良心が弱い人々」について語っています。偶像に捧げられた食べ物に関して、この「弱さ」とはどういう意味でしょうか？

4:9節でパウロは、信徒は自分の「自由」を「弱い人々のつまずき」としてはいけないと警告しています。これは、より深い理解を持つ者の責任について何を示唆しているのでしょうか？また、13節ではこの問題の解決策として、どのようなことが提案されていますか？

分かち合い

話し合い　その１：

説教の中で、武先生はガウンを着た神学校の卒業生の例えを使っていました。この例えから得られる重要な教訓は、この聖書箇所（1～3節）の中心的なメッセージとどう関係していますか？

話し合い　その2：

信徒は、信仰に忠実でありながら、他の人々への配慮も忘れずに、文化的・社会的なプレッシャーの中で、どのように生きるべきでしょうか？あなた自身がそのような状況を経験したことがあれば、分かち合ってください。

具体的な祈りの課題を分かち合い、互いに仕え合いましょう。